

道德教育と防災教育

第6回オンラインセミナー「道德教育と防災教育」(報告)

林 泰成 (上越教育大学)

1. はじめに

第6回オンラインセミナーは、2022年12月3日(土)13:00から、「道德教育と防災教育」をテーマに、学会員以外からの講師として藤井基貴氏(静岡大学)をお招きして、講演形式で行われました。

こうしたテーマを設定した背景には、阪神淡路大震災や東日本大震災などの大きな地震災害や、大雨や大雪、台風などの気象災害による甚大な被害のことが意識としてありました。こうした大きな自然災害が起こると、事前に防止できなかったのかというような反省の声が聞かれ、防災教育の必要性が叫ばれます。もちろん、防災教育は、道德教育を超え出る部分もあると思いますが、生命尊重などの観点から道德教育と関連するものであるということは多くの方々の同意を得られるのではないかと思います。また、道德科の教科書にはすでに、「稲むらの火」など、災害に関連するいくつかの教材が掲載されています。そこで、防災教育の問題に道德教育の観点からいち早く取り組み、教育哲学的な考察とともに教材開発にも関わられている藤井基貴氏(静岡大学)をお招きして、その考え方を学び、また参加者の皆様と意見交換を行いたいと考えました。

なお、藤井氏には以下のような防災教育と道德教育の関連に関する論文などがあります。

「災害道德の教育:「防災道德」授業の実践と哲学教育への可能性」(静岡大学哲学会編『文化と哲学』, 31巻, 2014, 21-40頁),

「防災と教育 ジレンマ授業」(中井仁監修『教育現場の防災読本』, 京都大学学術出版会, 2018, 332-347頁),

「『現代的な課題』を取り上げた道德科の教材・授業開発—防災を題材とした『主体的・対話的で深い学び』の実践—」(日本道德教育学会編『道德と教育』, 337号, 2019, 109-120頁),

「東書教育シリーズ 中学校道德科教授用資料 防災道德」(2021) (https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2021/2021098062.htm ダウンロード可),

「「防災道德」授業のねらいと実践」(『道德教育 3月号』, 明治図書, No. 753, 2021, 48-51頁),

「第14章 防災・環境問題と道德教育」(日本道德教育学会全集編集委員会編『新道德教育全集 第1巻 道德教育の変遷・展開・展望』, 学文社, 2021)。

2. 講演の概要と質疑応答

(1) 講演の概要

藤井氏は、もともと、東日本大震災から研究室の学生と防災教育に取り組んでいて、そのときに道德の時間における防災授業の一つとして、防災道德というものを提案されました。本日はそれも紹介しながら、もっと幅広い学校教育全体での防災と道德の関わりについても話題提供したい、ということでした。

氏は、防災の研究者は自然科学系の方が多く、しかし、東日本大震災後は、心理学や教育学系の方々も防災にかかわる機会が増えていることを説明し、防潮堤をつくるなどのハードウェアとしての側面ばかりでなく、ハザードマップを作るなどのヒューマンウェアの側面での防災にも関心が集まっているということを指摘しました。

また、ご本人が取り組まれている防災道德の特色として、「脅かさない防災」「考える防災」「伝える防災」の重要性を強調されていました。つまり、過度に不安や恐怖をあおらない取組が大切であるということです。

さらに、学校における災害安全は、防災教育と防災管理に分かれていて、その両者が防災活動の両輪であるという説明もありました。さらに、避難訓練の際に、「余震はないものとする、学校を含めたインフラの損傷はないものとする、けが人は発生しないものとする、校内放送は常にずっと流れていて情報は遮断されないものとする」というような想定の問題点の指摘は、なるほどと納得せざるをえませんでした。

講演は、クイズや動画の視聴も交えて行われ、私たちが、日常いかに無頓着でいるかということに気づかされる、とてもわかりやすい説明でした。

(2) 質疑応答から

講演のあとは、藤井氏とコーディネーター役の林とで対談することになっていました。講演の時間が少し伸びましたので、対談時間を短めにして、参加者の皆さんからの質問と応答の時間としました。そのやり取りを2つ紹介します。

①コーディネーター役の私から、リスクという言葉がどういう意味で使われているかを尋ねたところ、その回答の中で、次のようなエピソードが紹介されました。東日本大震災のとき、体育館で遊んでいた生徒たちに教師がすぐに避難するように指示したところ、生徒たちは一斉に下足箱に行って靴に履き替えたそうです。本来なら、体育館シューズのまま校庭に一直線に逃げるべきところを、生徒たちは「外に出るのだから靴に履き替えなければ」と考えたようです。この事態を「習慣が内在的なリスクとして顕在化した」と表現されました。

道徳的な視点からは、望ましい習慣だったわけですが、避難の際の行動としては望ましくはないという意味で、単発的な道徳科授業では扱うのが難しい事例なのかと思いました。防災道德という視点で考えなければならぬ問題のように感じました。

これと関連した発言として、「私がこれまでやってきた防災道德というのは、その内容項目に関する価値を理解するというよりも、そこで学ばれたことを複雑な場面の中で吟味、批判的に検討するという部分があります」ということも述べられていました。つまり、ある種のコンテンツを取り上げる場合でも、そのコンテンツをとおして思考力や判断力や表現力の学習というコンピテンスの開発を行っているということになります。

②参加者からの「仮定の質問に答えて判断力を鍛えていくということが、ゆくゆくは、道徳的な判断力につながっていくという点を、詳しく教えていただきたい」という依頼に応える中で、その説明に関連して「津波てんでんこ」を例に、次のような主旨のことを話されました。

「津波てんでんこ」は、「他人のことは無視して自分を優先せよみたいな誤解を受けやすいんですが、実は、家庭や地域でそのときはそうするんだよという合意形成がなされていることがきわめて重要」です。この点は、防災道德とも似ていて、「そこでとことん話し合うことで、その場では拙い未熟な話し合いであったとしても、最終的に自分がとるべき選択肢というものを状況に応じて、一つに決めていくというそういう構造と重なる」のです。

藤井氏の説明を聞きながら、「津波てんでんこ」には、災害弱者に対する支援をどうするかなど徹底した話し合いが前提としてあるということ、自分を助けに来てくれた人が巻き込まれるのを防ぐということも意図されているということなどがあると考えると、利己主義どころか利他主義のように思われ、改めてすごい原理だと感心しました。

3. 参加者の感想

(1)参加者アンケート「設問3：今回のオンラインセミナーを通して、特に印象に残ったことは何ですか」より

○防災の観点から道德教育を見直した時、道德科の枠組み自体を問い直す必要が生じることに興味をもちました。従来の道德教育・道德科の枠組みの中だけで考えていると、気付くことが難しい指摘をいただけたように思います。

○防災教育は、学校で一番大切なことのひとつだと思いますので今日は大変参考になりました。今日教えていただいたことを基に防災教育を是非自校で合う形に行いたいと思います。先生の本も読み実践につなげたいと思いました。

○防災教育ではなく「防災道德」として捉えていく際の内容項目との関連についての諸先生方のやりとりが、道德の在り方について考える機会となりました。藤井先生の「理由」を多面的・多角的に考えることが大切なのだというお話が現場の教員としては参考になりました。

○今回のテーマは大学生・高校生にとっては「道德教育と防災教育」だけでなく「総合的な学習」の要素もかなり含まれているように思いました。大学生・高校生の将来に大変役立つ活動であると思います。勉強になりました。ありがとうございました。

○防災教育では、避難方法や自信を守る姿勢だけでなく、いざという時に判断することの難しさを知ったり普段から考えたりすることの大切さを学びました。

(2)参加者アンケート「設問6：その他、オンラインセミナーに関して、ご意見があればお聞かせください」より

○ある専門分野からの基調講演を手掛かりに、座談会や意見交換があって、そこから学びが深まるこうしたセミナー形式は継続していただきたいと思います。

4. コーディネーターとしてのまとめ

防災教育と道德教育のかかわりは大事なことだと思いながらも、会員の皆さんの関心を惹くかどうか少し不安も感じていました。しかし、その不安は杞憂に終わったように思います。多くの会員の皆様にご参加をいただき、ありがとうございました。

私は、恥ずかしながら、「津波てんでんこ」を利己主義的な原理だと思い込んでいました。しかし、津波の際にはそうせざるをえないのだということで自分自身を納得させていました。けれども、藤井氏の講演をとおして、それがさまざまな工夫のうえに成り立っている原理だということに気づきました。

道德教育には、実にさまざまな事柄が含まれています。防災教育も取り入れないといけないということになると、すべての教材を取り扱えないというような声もあがりそうに思います。しかし、すでに、震災に関連する教材は、教科書の中でも取り上げられています。問題は、教科書作成の段階から考えると、道德的価値とは別に、「教材の内容」としてどのような出来事と関連させるのかということも議論していかないといけないということです。私が言いたいのは、学習指導要領の「第2内容」ではなくて、「教材の内容」です。たとえば「友情、信頼」を教える教材が、避難所での人間関係を取り上げるのか、学校での友人関係を取り上げるのか、遊びの中での人間関係を取り上げるのか、そうしたことも検討する必要があるのではないかと思います。極端なことを言えば、たとえば、戦場での友情の物語と、互いにライバル意識をもって切磋琢磨するスポーツ選手の友情の物語とでは、違った意識を子どもたちに抱かせるのではないのでしょうか。

そうした問題を整理することで、防災教育をどのように道德教育と関連させるかということも議論ができるようになるのではないかと感じています。

機会があれば、また、関連したテーマでセミナーを企画してみたいと思います。